

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ, V 】
2 実施対象者	土浦市立土浦第二小学校 <ul style="list-style-type: none"> ・第6学年児童 97名（男子59名, 女子38名）, 学年担当教諭 ・参観を希望した保護者
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（なかよし二小集会） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックの精神について学習することを通し、日常生活においてフェアな行動をしようとする態度を育てる。また、多様性を受け入れ、他者への敬意を払うことの重要性を理解させる。 ・パラリンピックの精神について学習することを通し、困難があっても諦めない強い意志をもって生活しようとする態度を育てる。また、多様性を認め、ハンディがあっても誰もが同じスタートラインに立てることを理解させる。 ・実際に障害者スポーツを体験させることで、その特性や困難さ、おもしろさを実感させ、それらに対する親しみや応援する心を涵養する。
5 取組内容	1 オリンピック・パラリンピックやその精神についての理解 <ul style="list-style-type: none"> ・感謝状を見せることによりマスコット投票活動を想起する。 ・オリンピックの理念を知る。 ・パラリンピックの理念を知る。 ・動画「みんなパラ」「Be The Hero」を視聴し感想を交流する。 ・「公平」について考える。 ・体験会の内容について知る。 2 菅谷選手講演会・車いすバスケットボール体験会 <ul style="list-style-type: none"> ・国体強化指定選手菅谷彰宏さんの経歴を聞く。 ・国民体育大会に向けた取り組みを聞く。 ・インタビュー形式で児童の質問に回答してもらう。 ・県立医療大学の橘香織先生から障害者スポーツについて聞き、「公平」について考える。 ・車いすバスケ体験をする。（みんなでリレー→みんなでシュート→みんなでゲーム!） ・感想を交流する。

【写真左：講演会の様子

写真右：車いすバスケのゲームの様子】



3 講演会・体験会の振り返りとまとめ

- ・アンケートに回答する。
- ・皆が楽しく生活できる社会について考える。

4 全校児童への伝達

- ・「なかよし二小集会」で、活動の様子や学んだ事、考えた事を発表する。



【写真左：動画を提示しながら報告する様子

写真右：報告を聞く全校児童】

6 主な成果

○様々な障害がある中でも、相手の立場になって考え、ルールを工夫することによって公平にスポーツを楽しむことを学んだ。

○車いすバスケを体験したことで、乗降の際の手助けのありがたさや、障害者スポーツの本質的な楽しさを実感することができ、パラリンピックへの関心が高まった。

○今日の学習で、心に残ったことを書きましょう。

車いすバスケのチームに入っている人が全員同じかをしていっているのではなく、何かが軽い人もいれば重い人もいりけれど、みんなが同じ条件でプレイすれば、楽しくできると思いました。

○公平とは何か？

みんなが同じ条件でいろいろなことをやる。

↓
同じ条件でやればみんなが楽しくできるよなと思う！！

○今日の学習で、心に残ったことを書きましょう。

この授業が私は、みんなと車いすバスケをやったとき、乗ったりおいたりするのが大変だったけど、友達が手伝ってくれたり、車いすバスケのときには、グループの人達と協力してできたのが良かったです。また、障害者のためにつくられたスポーツは、障害者がある人もない人も楽しめていいなと思いました。

○学級で活動を振り返り、「誰もが楽しい社会にするために、自分ができることは何だろう」と考えさせることで、相手の立場や考えを尊重することの大切さが共有され、普段の生活でもそのような場面や優しい気遣いを見せる児童が多くなった。

「だれもが楽しい社会にするために、自分ができるところは？」

- 全員の力を平等にして、全員が楽しめる。がんばれるような遊びやスポーツを提案する。
- たくさんの人と話し、コミュニケーションをとる。
- 相手の気持ちを考えたり、がう行動する。

「だれもが楽しい社会にするために、自分に」

- ・人と仲良くする。
- ・おんほと協力しあうこと。
- ・困っている人を助ける。
- ・相手の気持ちを考えて行動する。
- ・平等ですごす
- ・ルールを守る。

○下の学年でも、困難を乗り越え障害者スポーツに取り組む姿勢への感動や、互いに助け合うことの大切さへの気付きが見られた。

○動画を見たり、6年生の発表を聞いたりして考えたことをまとめよう。

動画で足がない人や目が見えない人がスポーツをやめないで、がんばっているのがすごいと思いました。6年生は重いすにすありながらシュートするのを見てすごいのがありました。ボールをいう人や重いすをおさえている人がくろくしてかんがえていたところでした。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)

- 目的意識の明確化→なかよし二小集会において、全校児童に向けて発表することを知らせることで、学校代表として体験することを意識付けてねらいの達成を図る。
 - 全校での取り組み→下記の2点を全学級で行い、ねらいの①、②について発達段階に応じた理解が全校でできるようにした。
 - ・二小集会の前に、オリンピック・パラリンピックについて説明する。
 - ・二小集会後に、「Be The Hero」の動画を視聴したり、6年生の発表について振り返ったりし、今後の生活や行動について考える。
- 【写真左：教室での動画視聴の様子 写真右：考えたことを交流している様子】



○動画を見たり、6年生の発表を聞いたりして考えたことをまとめよう。

足や目が見えなくても、同じルールで、しょうけんめい、やっていたのでびっくりして、すごいと思いました。6年生がわかっていても、必ずかいらのかな。と思ったのに、しょうがいなどがあっても自分から活けてきてくれたのがすごいと思いました。

◎これからの生活でやってみたいことや心がけたい行動を考え、まとめよう。

無理だと思って自分からチャレンジしてみることに心がけたいです。一度やったことをあきらめずに、最後までやります。



○動画を見たり、6年生の発表を聞いたりして考えたことをまとめよう。

動画を見て目たしょうかいを毛てる人はぜんいんあいにくさからかいらからアイマスクをしてごへいにするんだと思いました。ちかーでアイマスクをしてサッカーをするのがすごいと思いました。

◎これからの生活でやってみたいことや心がけたい行動を考え、まとめよう。

これからの生活でやってみたいことは重いすデニスや重いすバスケットをやりたいです。目たしょうかいを毛てる人かいらみちまよっていたらあんないしたらいいと思いました。

【4年生の振り返りカード】

8 主な課題等

- 障害があることが「かわいそう」という発想になる児童の声があり、その先にある「平等・公平」という視点にまで進めない児童も何人か見受けられた。
- 今回の体験を一過性のものにしないよう、日常生活の中で生かされるような継続した指導が必要である。また、発達段階に応じた適切な指導を行っていくことが大切である。

9 来年度以降の実施予定

- 道徳や学級活動で、オリンピック・パラリンピックの教材を用いた学習活動を引き続き取り入れていく。
- 「なかよし二小集会」などの集会で、啓発を図っていく。